

平成25年度 新宿駅周辺防災対策協議会 第5回セミナー  
「次年度の協議会活動に向けて」

## 新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画 について

2014.2.26

工学院大学建築学部まちづくり学科 村上正浩

## 人口・業務機能が高度に集積する中心業務地区

- 新宿駅周辺地域は経済活動等の中心であり、我が国経済を牽引する都市の国際競争拠点
- 大規模地震時には、甚大な被害が生じるリスクを抱えており、我が国経済に多大な影響をもたらす
  - 大量の帰宅困難者の発生、想定外の多数の死傷者と大勢の治療困難者の発生、周辺地域からの大量の避難者の流入、飲食店等での同時多発火災、等
  - 建築物等の損壊、ライフライン関連施設の破損等の物的被害の発生に伴い、企業等の業務の継続が困難

## 都市再生安全確保計画

### ◆ 都市再生安全確保計画制度の創設

都市再生特別措置法の一部を改正する法律(2012.7.1施行)

「都市再生緊急整備地区」(全国63地域、うち11地域は特定都市再生緊急整備地区)の関係者が密接に連携して、ハード・ソフト両面からエリアとしての防災機能を強化

### 「エリア防災」

従業員を含む滞在者等の安全性、立地企業の事業継続性を確保し、地域全体のブランド力の向上を通じて、都市の国際競争力を強化

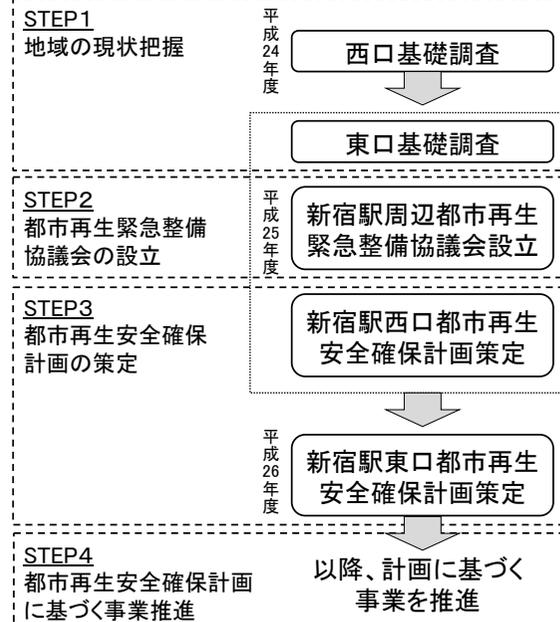
#### ◆ 人的被害等の抑制

- 直接的被害の抑制
- 安全な退避の確保
- 退避スペース・退避所の確保

#### ◆ 立地企業の事業継続性の向上

- 早期に事業再開が可能となる環境の整備
- 事業継続するうえで不可欠なエネルギー、情報通信手段の確保(→業務継続街区、BCD)
- エリア内の企業による事業継続に係る機能の補完、連携・協力

## 新宿駅周辺地域都市再生安全確保計画の取組



# 新宿駅西口都市再生安全確保計画策定基礎調査

## ◆ 基礎データの収集・分析

- ①地域内の人口及び交通関連
- ②地域内の建物の立地状況・耐震性能
- ③高層ビル(事業者)の防災対策
- ④ライフラインの防災性能
- ⑤情報通信インフラ整備
- ⑥医療機関
- ⑦避難場所及び避難施設
- ⑧新宿駅周辺の都市整備計画

## ◆ 被害想定 of 策定

- ◆ 新宿駅西口地域都市再生安全確保計画作成部会構成員及び構成団体等の検討
- ◆ 新宿モデル実現に向けての課題の整理
- ◆ 計画策定に向けての方向性の検討、等

### 30棟中23棟より回答

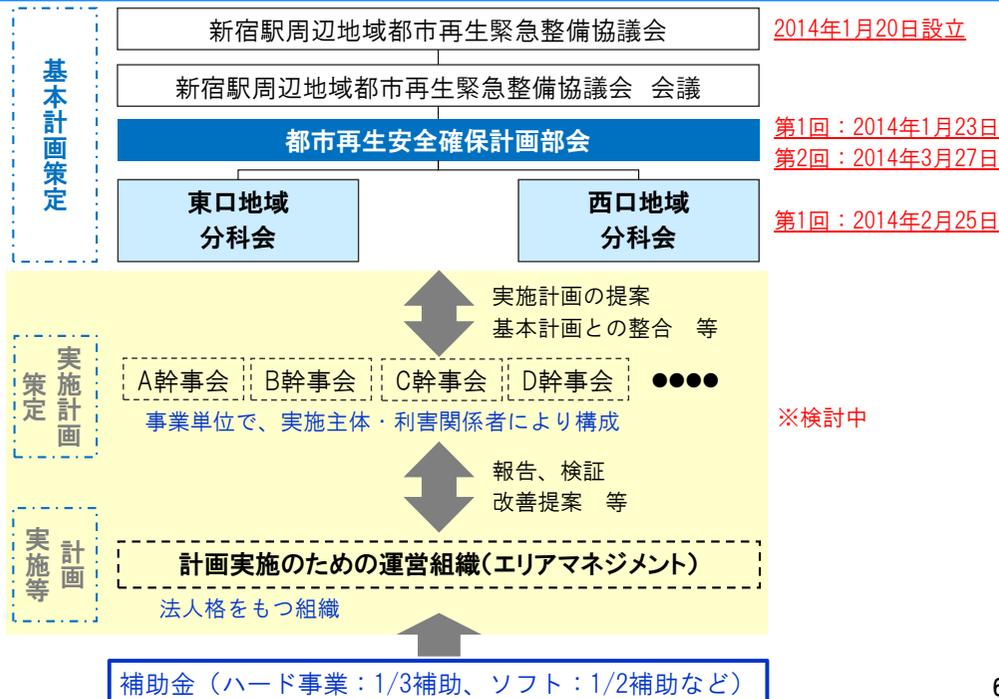
- **高層ビルの基礎データ**: 建築構造、竣工年、建築・延床面積、階数、入居テナント数、一日の利用者数、貸し会議室数、等
- **防災対策について**: 免震・制震の設置、非常用発電機の性能、建物モニタリングシステムの導入、全館避難の条件、備蓄品、等
- **BCPの整備状況について**
- **災害対応体制について**: 災害時の初動活動の内容、発災後の参集体制と参集人数、等
- **その他**: 帰宅困難者等の受入、自治体との帰宅困難者等の受入協定の締結、入居テナントへの什器等の固定に対する依頼、等

# 新宿駅西口地域の地域特性

- 他地域からの流入者が多く、昼間人口が多い
- 新宿駅は公共交通の要衝であり、社会的に影響が多い事業所も多く集積
- ビル街の防災対策は総じて高く、ライフライン機能も集積

調査対象地域の地域特性	
人口特性	○ 他地域に比べ、 <b>昼間人口が多く夜間人口が少ない</b> 。昼間人口は西新宿一丁目・二丁目・六丁目に集中している。※平日の14時台:18.5万人 ○ <b>他地域からの流入者が多く</b> 、平日の14時台には約18万人が他地域から流入している。
交通特性	○ 新宿駅は <b>公共交通の要衝</b> となっている。
建物の立地	○ <b>多くの事業所、従業員を抱えている</b> 。西新宿一丁目・二丁目・六丁目・七丁目に集中している。 ○ <b>金融機関や社会的に影響が多い事業所が集積</b> しており、西新宿一丁目・二丁目・六丁目に集積している。
防災対策の実施状況	○ <b>制震対策等を実施しているビルは3割程度にとどまっている</b> 。一方で、備蓄についてはほぼ全てのビルで備えられている。 ○ BCPは6割が策定している。避難訓練に関してはテナントも含めた訓練を全てのビルで行っており、 <b>ビル街の防災対策は総じて高い傾向</b> にある ○ 新宿区の備蓄倉庫は比較的多く立地している(特に西新宿一丁目・二丁目)。
ライフラインの防災性能	○ <b>高層ビル街を中心に地域冷暖房システム、コージェネレーションシステムが整備</b> されている。 ○ <b>すべての高層建築物(不明を除く)が非常用発電機を備えている</b> 。 ○ <b>調査対象地域全域に無線LANスポットが分布</b> している。地域内では西新宿一丁目、七丁目に集中している。 ○ <b>多くの医療機関が立地</b> している(東京医科大学病院は災害拠点病院に指定)。 ○ 一時滞在施設として想定される施設の収容人員は約50,000人

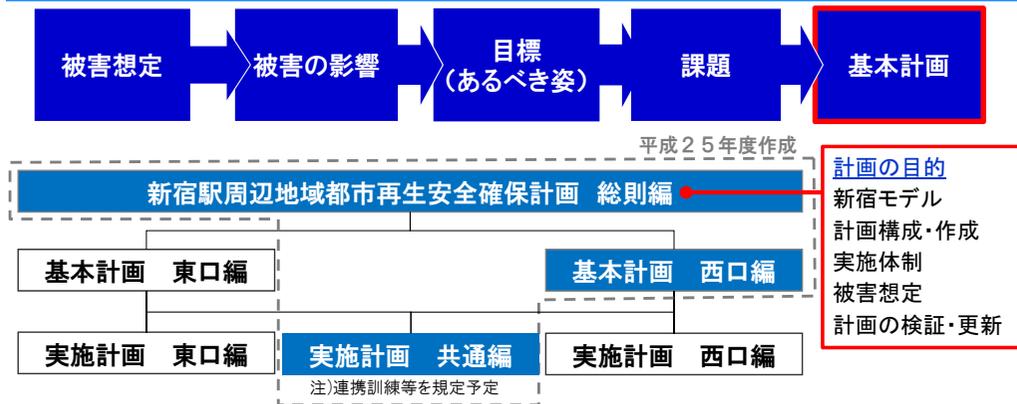
# 計画の作成及び運営体制



# 都市再生安全確保計画の策定: 目標の設定



## 都市再生安全確保計画の策定：計画の構成等



- 新宿駅周辺地域の活性化をはかり、**地域の付加価値を高め国際競争力の高い街を実現**することを最終的な目的とする。
- ハード・ソフト両面からの防災対策の充実を図り、滞在者等の安全性の確保及び立地企業等の事業継続性を向上することにより、**安全で安心して住み・働き・学び・集うことができる、災害に強いまちをつくる。**
- 本計画に基づき推進されるハード事業、ソフト事業は、必ずしも災害対応時のみではなく**平常時における機能についても視野に入れるものとする。**

8

## 都市再生安全確保計画の策定：基本計画の骨子

- ◆ **事業継続可能な環境の確保**(←建物安全確認等の概念を拡大)
  - 建物の安全を判断する仕組みの構築
  - ビル内で安全に待機・活動できる仕組みの構築



- ◆ **情報収集伝達等**
  - 情報収集・連絡手段を整備し現地本部を中心に方法及び体制の構築
  - 情報伝達手段を整備し、現地本部を中心に方法及び体制の構築
- ◆ **避難・退避誘導支援等**
  - ビルから安全に退避できる仕組みの構築
  - 滞留者等への対応
- ◆ **医療救護活動等**
  - 負傷者にビルで対応できる仕組みの構築
  - 災害拠点病院等で重症者に対応できる仕組みの構築

ハード対策：通信・エネルギー・空間利用・その他(備蓄等)  
ソフト対策：しくみづくり(ルール、システム)・ひとづくり(防災リテラシー)

- ◆ **平常時の活動**(エリアマネジメント、新宿駅周辺防災対策協議会との連携、等)
- ◆ **都市再生安全確保計画の検証・更新**(地域連携訓練、等)

9